

令和7年度 社会福祉法人なすびの里  
指定共同生活援助事業ほうれん荘 地域連携推進会議 議事録

1. 日 時 令和8年2月21日(土)  
11:00~12:00  
※同日、9:30~11:00までグループホーム見学会を実施。
2. 場 所 ゆうの家会議室
3. 参加者 ほうれん荘利用者(1名)、ほうれん荘家族(1名)  
さくら荘利用者(1名)、さくら荘家族(1名)  
地域代表(1名)、福祉知見者(1名)  
サービス管理責任者(1名)、世話人(1名)  
ほうれん荘及びゆうの家管理者(1名)、あいのいえ管理者(1名)

議 題

- (1) 委員の自己紹介  
○各委員、事務局の自己紹介を行った。
- (2) 地域連携推進会議の目的説明  
○資料に基づき、委員会の設置背景や内容について説明があった。  
なお、本会議は説明中心の場でなく、参加者同士が意見交換を行い、気づきや要望を共有する場としたいとの趣旨が述べられた。特に、利用者、家族、地域の方々の意見を大切にし、自由に意見交換できる場にしたい旨の説明があった。
- (3) グループホームの全体運営状況(令和6年度決算)  
①事業活動収入 33,027千円 ②事業活動支出 25,148千円  
③(①-②)収支差額 7,879千円 ④借入金 4,872千円を差し引くと  
⑤(③-④)差額 3,007千円
- (4) 意見交換会  
○サービス管理責任者及び世話人より、グループホームの活動及び日課、BCP、感染症対策等について説明があった。  
  
○利用者より  
・ほうれん荘のグループホームはアパート形式で住みやすそうだった。さくら荘の

生活で困っている事はないが、食事の時にお茶（麦茶など）を出してほしい。  
→要望を実施する旨、事務局より返答があった。

- ・以前のほうれん荘は栃木市大光寺町にあり、買い物が不便だった。平井町のアパートに引っ越して部屋も広くなり、周りに買い物する場所や食事出来る場所があるので生活しやすくなった。

#### ○家族より

- ・家族だけでは支えきれない部分もあり、安心している。
- ・預けることで、気持ちに余裕が出てきた。
- ・年齢を重ねていくと、グループホームに居られるのかが心配。  
→状態が変わらなければ継続可能。身体状況や医療ニーズによっては別の形態のグループホームや介護保険サービスを検討。その都度、相談支援専門員と話し合いながら決めていく旨、説明があった。

#### ○福祉知見者関係者より

- ・日常の小さな選択が大切だと思う。
- ・食事を選ぶ、外食先で自分でメニュー頼む。そういう積み重ねが将来の意思決定につながる。
- ・家族も職員も無理しすぎない形が理想である。この会議がきっかけになればよい。

#### ○地域関係者より

- ・班長が毎年変わり手続きが進められず、まだ自治会に加入できていないようなので確認しておく。  
→わかり次第、自治会の加入を進めることとなった。
- ・地域の祭りや公民館行事もある。可能であれば、参加を検討願います

その他、質疑応答及び議事はなく、以上をもって令和7年度社会福祉法人なすびの里指定共同生活援助事業ほうれん荘地域連携推進会議は終了した。